代

\equiv 熊野町の義務教育

熊野第一小学校

熊野の学校教育は、 れた小学校を起源とする。 明治七年(一八七四)八月に、西光寺習字教場を「孔時館」と改め設立さ 以来、 長い歴史を持つこの小学校は、 「中溝学校」

(明治九年)、



野第

七年)、 二十一年)、「熊野尋常高等小学校」(明治三十年)、「熊野第一尋常高等小学校」 「中溝小学校」(明治十五年)、 「熊野第一国民学校」(昭和十六年)などと幾多の校名改称を経て今日に至 「熊野小学校」(明治十九年)、 「熊野尋常小学校」 (昭和 (明治 って

いる。

こうした度重なる校名の改称は、 「熊野町のあゆみ」のみならず近代日本教育の変

遷をそのまま示しているのである。

校教育法の定める、 現在の 「熊野町立熊野第一小学校」の名称は、 新しい六・三制の学校制度の発足によって改称され、 敗戦後、 間もない昭和二十二年(一九四七)三月に公布された学 今日に至っているものである。

校区には、 本町の政治、 経済、 産業、 宗教等の中心機関が集中しており、 町の中心部に位置する小学校であ

る。

情に厚い。 から生じる保護者の意見も少なくない。 通学している児童の保護者には、 L かし、 その反面に古くからの地場産業である毛筆生産機構と相まって、 昔から本町に居住している者が多く、 地緣、 血縁によって結ばれており、 古い伝統的な見方、考え方

育

年 (昭和)	児童数 (名)	備考	年 (昭和)	児童数	備考
22	951	熊野第一小学校と改称	40	777	障害児学級開設
23	955	PTA結成式	41	780	
24	968		42	776	熊野団地居住許可
25	992		43	762	
26	1,043	第1回全国習字教育大会	44	768	熊野第三小学校開校
27	1,063	教育委員会発足	45	769	新校舎落成式
28	1,118		46	782	
29	1, 115	新校舎起工式	47	716	
30	1, 161		48	794	
31	1,203		49	871	創立百周年記念行事
32	1, 193		50	955	東校舎落成
33	1,208	第8回習字教育研究大会	51	960	南校舎落成
34	1,130	新校舎落成式	52	1,071	熊野第四小学校開校
35	1,059	学級定員58名から56名へ	53	1,167	正門完成
36	967		54	1,230	
37	891	学級定員54名に	55	1,290	
38	833	教科書の無償配布	56	1,340	
39	785				

 心が高く、習字教育への要望には強いもの する家庭が多いことから、書道に対する関 を は、校区には毛筆生産に係わって生活

がある。

また保護者には、地縁、血縁が薄く、新しい見方や考え方で意見や主張が述べられることも多い。年々、児童数は増加しており、一年ごと一学級ずつ増設することが必要な状態が続いた。転居して来た新しい保護者が増加することにより、学校に対する関心や要望を率直に表現することが多くなっており、地域性は徐々に変化しつつあ

習字教育研究発表会」のことを抜きにすることはできない。

る「習字教育研究発表会」の開催となったのである。 教育への取り組みが始まった。 けて来た 敗戦によって、習字教育は日本の小・中学校教育の中から姿を消してしまった。 『書』を何とかして必修にせねば……図画と共に生きつづけさせなければ……」という見地から、 それが全国へ呼びかけて習字教育の真価を再確認すると共に、 「日本の伝統の中に生きつづ その必要性を訴え

念願がこめられていた。 が傾けられた時代である。 校外での席上競書会への参加など、校内はもちろんのこと、 合しての開催が連続三回ある。 教育活動としての研究授業や研究発表、 昭和二十六年(一九五一)から連続五回、 習字教育を図画と同様に日本の学校教育の中に取り戻し、位置づけたいという町民の 熊野第一小学校にとって、この時期は、全国習字教育研究発表会時代ともいえる。 教師や児童の実技指導、 次いで熊野中学校、 地域ぐるみ町ぐるみで習字教育復興のために、 熊野第一小学校、 講師を招聘しての校内研修、 熊野第二小学校と町内三校が連 校内競書画 情熱

によって結実したのである。 こうした町を挙げての努力は、昭和三十三年(一九五八)に「書写」が小学校で必修として位置づけられること

日本の社会が高度経済成長期を迎える昭和四十年代は、熊野町にとっても、 熊野第一小学校にとっても変化と

出来事の多い時期であった。

陵地が造成され、 から始まった大規模な県営のモデル団地の造成である。平谷、川角地区から呉市押込町にまたがる一帯の山林丘 静かな田 |園のたたずまいを見せていた「筆の都」熊野町に一大変化をもたらしたのは、 宅地として供給された。 昭和四十年(一九六五)



図 6 — 4 —13 熊野第三小学校校舎全景

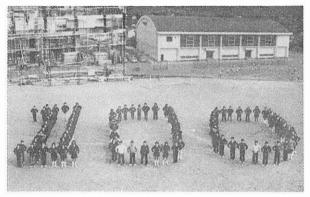


図 6 -4 - 14熊野第一小学校光栄の百年

0

部を仮校舎としたあわただし

い開校だ

第 九学 四

小学

校 (一九六九) 編成された熊野第三小学校である。

され、 教室の西校舎が完成して近代的な外観が 後も休みなく続けられた。 して間もなく、 町当 た。 局 翌四十五年四 による学校設備を整える努力はそ 第 月には 小学校の校舎改築が着手 鉄筋三 第三小学校を開 階 建、 出 現

新設小学校の開校と熊野第 小学校の 発展

こうした地域の大きな変動を背景

べ、

の小学校が誕生した。

それは

昭和

四月、

児童数二五三人、

級 四 第 年

0

ることが町の緊急の課題となった。 として激しく変貌してい は熊野第 に移住してきた人々の多くは、 小学校の校区に造成され、 2 たのである。 幼児を連れた比較的若年齢層 予想される児童数急増に対 0 家族構 処す

成であ

2

団 団 地 地

熊野 た。

П 急増町 また、

昭

和四十二年(一九六七)ごろから入居も始まり、

人

口

0 増

加

から 目

立

ち、

熊

野

町

は、

人

現

代

月	儀式的	学芸的	遠足的	保	建 的	体	育	的	安全的	そ	の	他	備	考
4	始入就送児任			歯科 ツ B. 検尿(測檢檢 C. 検旬 定 下 測定									
5		子どもの 日 競書会	遠 足 (4日) (4日) 修学旅行 (24~2 泊)	日脳レン体重	診接が定端			i	交通教室	(7	~2	方問 (日) 快画		
6				導 体 重	がき指 測定 指導				避難訓練	巡口地区				
7	終業式	4	キャンプ	水泳 康 康 学 委			泳	省 導		地区	见	童会		
8													球町水学百	支 会 会 会 交 会 交 会 交 会 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表
9	児童役員 任 命 式	全国書画 展 出 品 夏休み 作 品 展		体 重	測定	水	泳 (6	大 会 日)		地区	[児]	童会		
10			校外学習	学校	測定保健員会		季運 (6	動会日)	<交通安 全パレー ド>				迫	「民 『動会> (10日)

表6-4-4 熊野第一小学校の年間行事(昭和50年度)

第四節 教

育

	€) •)				高原ブロッ ク記録会 (23日)	交通教室		
11	Z	新年作品 選奨大会 作品応募	体	重測定		避難訓練	算数研究会 (28日)	
12	終業式		体	重測定		交通教室	地区児童会	
1	始 業 式 児童役員 任 命 式	競書会	学就	重) 定 校 員会	び大会	A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	地区児童会 一日入学	#17
2		学習発表 会 (23日)	体	重測定	校内マラソ ン大会			
3	修 了 式 第28回 卒 業 式	子ども 音楽会	体	重測定	球 技 会	交通教室	六年を 送 る 会 地区児童会	

成し、 明治七年(一八七四)の小学校創立から百年を迎えることに 四)八月には待望の体育館が落成した。 こうした学校の設備・環境が充実、整備されたときに、 校内水泳大会も開催された。 同年九月には二五メートル、 昭和四十九年(一九七

した。

七コースのプールが落

熊野第一小学校は、その後も校舎の建設が続けられた。

催された。

念して、

「学校創立百周年」の記念式典と祝賀会が盛大に

なった。昭和四十九年九月五日、

百年の学校のあゆみを記

昭和五十一年、 昭和五十年、東校舎落成(鉄筋四階、 南校舎落成(鉄筋三階、 六教室)

は表6-4-4の様な年間行事予定で営まれており、学校 こうしためぐまれた学校環境の中での、 昭和五十五年、 昭和五十三年、 中校舎改築完成 (鉄筋四階) 正門完成 西校庭拡張、西門移設 児童の学校生活

生活の充実が求め続けられているのである。

熊野第二小学校

熊野第二小学校の沿革も、 相当古いものである。 日清戦争直後、 明治二十八年(一八九五)の

熊野尋常小学校新宮分教場の発足が、この学校の始まりである。

教場 がなされるが、学校の位置は変わらず、小高い場所にある学校からは学区が見渡せた。 は、 翌年には追分尋常小学校と改称され、 以後独立校としての歩みを始めた。 その後何度かの学校名の改

の大修理も行われて、新しい教育活動に対する環境が整備されていった。 昭和二十二年(一九四七)四月一日に熊野町立熊野第二小学校と改称して、 戦後の歩みを始めた。 同年には校舎

割に相当する数字が示されていることは、 までに結成を見ていた。 った。この「父母と先生の会」(PTA)は、この年五月の森戸文相の講演によると、 翌二十三年、「父母と先生の会」(PTA)が結成され、 アメリカ合衆国では、 国民の新教育に対する熱意を表わす以外の何ものでもないと、 全学校数の二割に満たない程度である。 松野至が初代会長となり新しい活動に取り組むことにな 全国 わが国でこの短期間 小学校、 中学校の七割

語っている。

とは単に文部省や教師だけにまかせるべきものではなく、 さらに、 「父母と先生の会」の使命として「われわれの最大の希望を子どもたちの幸福におくとき、 の会」はすでに三十数年のあゆみを続けている。 協力して本来の使命をはたすように」とも述べているのである。 一般社会の人々の自覚によって父母と教師とが PTAの名称が定着した今、 以後、 「父母と先生 教育のこ 本来の 互 VI



使命を顧みることも必要になってきた。

熊野第二小学校の学区は初神、

新宮の両区である。

熊野町の東に位置し、

広島市安

二小学校校章

芸区阿戸町と隣接する地域で、

人口は初神区八一二人、新宮区一五九八人の合計二四

この熊野尋常小学校新宮分

652

数 西部の宅地造成が一段落すると共に、 するが毛筆製造、 〇人(昭和五十五年七月三十一日)で、 も増加してきた。 交通の便は、 学区内にあまり大きな変化も見られなかった。 広島バスセンターまでバスが一日二三往復するが、 会社・工場勤務などの兼業農家が中心である。 この学区での宅地造成、 熊野町の約一割の人口を占めている。 住宅建築が進み、 近年までは瀬野川の上流に広がる田園風景が保 昼間は回数も少なく不便である。 熊野第二小学校 六二七世帯の大部分は、 図 6 - 4 - 17 である。 他市町から転入してくる世帯 と最も少なくなってしまったの 皮肉なことに児童数は一〇八名 た昭和四十年(一九六五)には、 二小学校が創立七十周年を迎え 十年ごろから減少し始めた。 校の児童数は、 二〇名でスタートした第二小学 ○○名台を維持したが、 昭和二十二年(二九四七)、二 こうした児童数の減少 しばらくの間二 しかし、 農業を主と

昭 和三

町

第

示されている時期に、 県営熊理 傾 向 から

8:10~ 8:15 職員朝会 8:15~ 8:30 健康観察

8:30~9:15 第一校時

9:15~ 9:25 休 息 (牛乳給食)

息

息

職員下校

 $9:25\sim10:10$ 第二校時

10:10~10:15 備 10:15~10:25 業間体育

 $10:25\sim10:35$ 休

 $10:35\sim11:20$ 第三校時 11:20~11:25 休 息

11:25~12:10 第四校時 食

12:10~12:55 尽 $12:55\sim13:00$ 準

備 $13:00\sim 13:15$ 全校清掃

13:15~13:20 移 動 第五校時 13:20~14:05

14:05~14:15 休 息 第六校時 14:15~15:00

15:00~15:05 息 休

15:05~15:45 特 活 15:45~16:40 研修事務

 $16:40\sim16:55$ 休

◎土曜日日課

8:10~8:20 職員朝会 8:20~8:30 健康観察

第一校時 8:30~ 9:15 $9:15\sim 9:21$ 休 息

9:25~10:10 第二校時

息 (牛乳給食) 10:10~10:20 休

第三校時 10:20~11:00 息 11:00~11:05 休

第四校時 11:05~11:45 $11:45\sim12:00$ 集団下校

 $12:00\sim 12:10$ 休 息

職員下校

住 れ 宅が まず、 うした小学校の変貌に 周 É 囲 建てられてい 動車の交通 0 変 学校のすぐ前を通 化 は学校に 量 から 2 增 も及んできた。 た のである 加した。 歩調を合せ 2 て熊野 同 るか 時 一阿戸 プ K 1 ゆ のように、 間 ル 2 たりし から を結ぶバ 完成 学区の様子も変わっていった。 た た昭 Ш スが軒先をかすめ の裾の 和 Ŧi. 緑 + から 切り払 年 る様に 九七六) われて、 して K 新し 走 は 2 7 六三名で 11 宅 い 地が次 た道 あ 路

々と誕生し、

から

広

く改修さ

0

た

児

童

数

が 昭 なされた。 和 四 あるが、第二小学校にはその影響が [十六年(一九七一) 翌四十七年鉄筋三階六教室の校舎が着工されて、 木造校舎 0 間 K 及ば 新 L 1, ts 体育館が か 0 た。 落成するととも 学校は近代的な外観 新校舎 建 へと様相を変えてい 築 0 た 25 VC 用 地 拡 つ 張 た 0 I

ので

る 哥

地

0

事

造成は着手され た。 ح 0 団 地 0 入居 開 始 K よ 2 て、

町

0

人

П

は

急増

Ļ

新

11

1

学校

0

着

工が

必

一要と

代

一戦後の新しい教育

戦後の混乱の中から 昭和二十年(一九四五)八月十五日の敗戦から、連合軍の進駐へと激動する日本史の転換

点においても教育の営みは休むことなく続けられた。

国史、

地理の授業が初等・中等の各学校で停止となり、

翌年

同年十二月には戦前の教育を象徴する修身、

九四六)一月二十三日には熊野第一国民学校で御真影奉還式が行われ、「全児童・職員整列して奉送する。」との

記事も残されている「熊野第一国民。

んになり、新教育に関する講演会の開催や研究会への参加がなされている。 昭和二十一年(一九四六)十一月三日、 日本国憲法が公布されると、新教育を求める教職関係者の研究活動も盛

翌二十二年(一九四七)三月三十一日、教育基本法と学校教育法が公布された。

第一条 (教育の目的)

教育基本法

教育は人格の完成をめざし、 平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、 勤労

自主的精神に充ちた心身とも健康な国民の育成を期して行われなければならない。

第四節 教

と責任を重んじ、

育

以下、第二条 ついての大綱を規定している。 第六条 (学校教育)、 (教育の方針)、第三条 第七条 (社会教育)、 (教育の機会均等)、 第八条 (政治教育)、 第四条 (義務教育……9年の義務教育)、 第九条 (宗教教育)、 第十条 第五条 (教育行政)、 (男女共

これによって、個人の尊厳を重んじ、 平和を求め、 個性ゆたかな文化の創造をめざす、 戦後の新しい教育の進

六・三制の発足

むべき道が明示された。

設置が決定された。これを受けて昭和二十二年(一九四七)四月一日から新しい小・ また、学校教育法によって六・三・三制の新制度に改められ、 小学校、 中学校、 高等学校

熊野町では、

熊野中学校が熊野第一小学校内に併設して発足した。

国民学校をそれぞれ熊野町立熊野第一小学校、

熊野第二小学校と改称している。

同時

E

熊野町立

通の ラムー · 四本本中は お話する

図 6 年9月より使用)

き彫りにされていた。ことに、こうした困難な状況のもと

民主主

義教育と戦いにやぶれた国土疲弊の

苦し

状態が浮

教科書が改訂によって発行されるなど、

戦後の与えられ

科となった。 りつぶされ、 教科が消えて新しく「社会科」が誕生した。小学校では、 語、 教科も改編され、従来の「修身」、 算数、 新聞紙と全く同じようなタブロ しかし従来の教科書はいたるところが墨で塗 理科、 音楽、 図工、体育、 「国史」、 1 1 家庭の八教 地理 版 0) 暫定

歴代教育長・教育委員長一覧 表6-4-1

教育長	
氏 名	在 職 期 間
庄賀 恵吉	昭和27年11月~昭和28年3月
榎 崎 薫	// 28年4月~ // 32年3月
仏円 松夫	# 32年4月~ # 33年9月
友岡 清	# 33年10月~ # 34年9月
前中 真吾	# 34年10月~ # 40年9月
世良 統彦	〃 40年10月~

教	育	委	員	長

氏	名		在	任:	期	間
井原	卓蔵	昭和	口27年	₹11月~	-昭和	131年 9 月
井上	寿三	11	31年	₣10月~	11	32年9月
神鳥	覚人	11	32年	₣10月~	, 11	33年9月
越智	清智	11	33年	F10月~	- 11	35年7月
友 岡	清	11	35年	₣8月~	- 11	40年9月
佐々木	高博	11	40年	₣10月~	- 11	51年9月
岡本	春登	11	51 [±]	F10月~	- 11	53年9月
神鳥	武夫	11	53年	F10月~	-	

< たものである。 実情にあわせて行われるように定められ 世、 成る教育委員会に教育行政の実権を持た 化を確立するため、公選された委員から この法律は、 公正な民意によって、 教育が不当な支配に屈することな 教育の民主化と地方分権 しかも地方の

行われ、 昭和二十三年十月、 都道府県に教育委員会が発足し 教育委員の公選が

た。

あるという自覚のもとに、 戦後の教育改革の仕上げとして教育行政のあり方を示した教育委員会法が昭和二十三年七 公正な民意により、 地方の実情に即した教育行政を行うために、 教育委員会を設け、 教育本来

教育委員会の発足 第 (目的)この法律は、教育が不当な支配に服することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われるべき で 月十五日に公布された。

目的を達成することを目的とする。

中学校の創立に当たった教育関係者や行政当局者の苦労は実に大変なものであったことが推察される。

持たない新制中学校が昭和二十二年(一九四七)四月一日に一斉に開校されたのである。

新しい学校としての新制

で急激に教育改革が進められたにもかかわらず、県下各市町村の津々浦々に至るまで戦前の教育には何ら基盤を

会が設置され、 昭和二十七年(一九五二)十月一日教育委員会法の全国的な実施にともない、 熊野町にも熊野町教育委員会が発足した。同年十月五日に教育委員選挙が行われ、 全国の市町村にもれなく教育委員 初代の教育委

員長に井原卓蔵が選任され、 敗戦後からの態野町の教育を、 教育長には庄賀恵吉が就任し、教育委員会の活動が開始された。 就学前教育・初等教育・中等教育・社会教育の順に回顧したい。

二 就学前教育

中央保育所 団地が造成され、 熊野町では、 昭和四十二年(一九六七)に一八〇〇戸(約八〇〇〇人)が住むことのできる県営熊野 町の人口が急増した。ここに入居したほとんどの家庭が幼児を持つものであ

ったり、その後に子どもが誕生する若い世帯であった。

高まり、町役場や町議会への働きかけがなされた。 いう要望が強くなった。そのため安心して子どもを預けられる保育所の開設を求める動きが、若い母親を中心に こうした幼児を抱えた家庭の中には、職業に従事する事を希望する母親も多く、 「新しい保育所が欲しい」と

りはなく、保育所の設置は遅れざるを得なかった。 しかし、児童、 生徒数の急増による、小・中学校の建設に追われる町当局には、そのような要望に応えるゆと

た中溝地区、バイパスの南側の小高い場所に用地が確保された。 昭 和四十七年、 待望の保育所設置が町議会で議決された。設置場所は、 町のほぼ中央部で交通の便にめぐまれ

建設工事は翌四十八年から、 当時トンネルが掘削されていた新幹線工事からの土砂をもらい受けたりして始め

られた。

され、

環境も整えられていった。

備も不 所当時 昭 - 和四十九年九月、建設工事は完了して、「熊野町立中央保育所」が一二〇人の定員で開所した。 の保育所周辺は住宅などの建物もまばらで、 幼児を預ける母親にとっては厳しい状況であったと思われる。 ススキがなびいているという状態であった。 しかし、 翌五十年には道路が舗装 さらに道 しかし、 路 0 開

至阿戸 N 至里瀬 0 0 至矢野 ■ 保育所 〇 幼稚園 至呉 町内にある保育所・幼稚園 迎えた。 表6-4-2 中央保

第四節

教

育

昭和49年度	46名
50	75
51	119
52	120
53	177
54	178
55	187
56	147

五十五年には、 が施され、 昭和五十三年(一九七八)には保育室の増改築工 L かし翌五十六年には 入所児の増員への対応もなされた。 在籍数は一 八七名となり、 一四七名と減少傾向 ۲° 昭 7 を 和

た。 った。 を預かっており、 中央保育所では、 その後、 入所児の人数は年を追って増加してい 開所当初の在籍数は四六名であ 零歳児から五歳児までの乳幼児

字でもある。

保育所の一日は午前八時、

保護者が子どもを預けに来ることから始

を示し始めた。

このことは、

熊野町の人口変動が安定、

図 6 3

中央保育所

子ども達を遊ばせたり、

食事や午睡をさせるなど、子どもたちの年齢

る。そして、午後四時から、保護者の迎えを待って終了する。

その間

応じたさまざまな世話が必要である。 こうした子どもたちへの面倒を所長と一○人の保母、それに一人の栄

養士で見ているのである。 この幼稚園の起源は古く、大正十四年(一九二五)ー 推定

淳教幼稚園 に光教坊の第一三代住職石山徹秋が自ら園長となり淳

教幼稚園を設立した。

現在も使用されている園旗は設立当時のものであ

様に保存されている数枚の記念写真から、 代は「第一回保育記念」と文字が焼き込まれている記念写真で微笑んでいる幼児の顔からも推定される。 残念ながら園の設立を物語る文献が何一つ残されていないため、 園が昭和五年(一九三〇) ~同六年ごろまでの間、 確かなことは不明である。 存続していたことが しかし、 設立の年 また同

現在の淳教幼稚園は、 生活の安定によって高まってきた幼児教育の充実を求める地域や母親の要望に応えるた

推測される。

る。

沈静化していくことを示す数



図 6 - 4 - 4 淳教幼稚園旗

園の主な行事(淳教幼稚園) 4月 入園式、家庭訪問 5月 遠足、花まつり、健康診断、 降誕会(しんらん様のご誕生を祝う) 6月 いも植え 7月 七夕まつり、(年長)夏季おとまり保育 8月 盆おどり 9月 運動会、遠足 お月見、いもほり、健康診断 10月 落葉ひろい、絵画作品展 11月 12月 成道会、餅つき、報恩講(おとき) 御正忌、とんど 1月 2月 節分、生活発表会、涅槃会 ひなまつり、老人ホーム慰問、お茶会、

十八年—一二八人、

JU

七年二一一一人、

DU

九年—一一四人、

Ŧi.

園児の人数は、

昭

和

DU

園記念写真によると卒

3月 おわかれ会、卒園式 うな様 前 どもたち 十年=一二八人、五 る 写真一杯にあふれそ 年=九九人である。 後 状態 の記念写真には 子で緊張 か 0 5 顔 は 0 並 した子 その んで + 641

校

0 昭 K

旧

和

開され

たものである。

、園として、

昭

和四十七年(一九七二)、

町

の変容を反映する園児の急増傾向

に対

応して、

園舎が増築された。

このころの卒

い迫力を感じることができる。

こうした状況のもとで、

翌年四月から淳教幼稚園として正式に発足し、現在に至ってい

るの

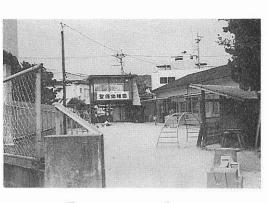


図 6

4 - 5聖徳幼稚園

聖徳幼稚園

である。 け、

の女子教育のための婦徳高等女学校を寺の東側に創設 大正十五年(一九二六)に西光寺の住職、 猪野恵亮が地

乱期に聖徳中・高等学校(昭和二十二年閉校)を運営した実績を持つ学校法 たことから私立の教育施設としての歩みが始まっている。 終戦直

後の混

人猪野学園である。

ってきた。このような地域社会の強い要請に応えて昭和二十 の落着きを反映して、 熊野町の人々の生活が安定し、暮しぶりにゆとりができるという世 地域に幼児の保育と教育の施設を求める声が高 九年 二九

五四)に、 学校法人猪野学園、 聖徳幼稚園が開設されたのである。

乳幼児の教育は

幼児教育への取り組みがなされてきた。 る健全な心身の発達を促す場であるという方針で指導がなされた。 「三ッ子の魂百まで」の言葉どおりにその人の一生を左右してしまうということを前提とした 幼稚園は集団生活を通して、 家庭では経験し得ない体験の積み重ねによ

の団地に入居する世帯の多くが乳幼児を抱える若い年齢層で、幼児教育施設の設置は緊急の課題だっ また、 昭 和四十三年(一九六八)には、 広島県の要請に応じて、 熊野団地内に第二聖徳幼稚園が開設され たので あ

昭和五十年 (一九七五) に幼稚園設立認可を受

園

「の施設はその後も整備され、

昭和五十二年

(一九七七)には第二聖

一徳幼

稚

園に

体

育館兼講

堂が建設されて、

特色ある幼児教育をめざしての努力が続

られている。

6 講堂兼体育館 (第二聖徳幼稚園内) 図 6 - 4

2

かり学園

昭和四十二年(一九六七)

県営の熊野団地

が造成され、

新

住民の入居開始に伴う人口の増加は、

この地域に種

々の

社会

特に働く若い母親達にとって、

安心してわが子

預けられる乳幼児の保育施設が団地内に設置されるということは切実な要望 施設の必要を生じさせた。 であった。

である。 ひかり学園」 こうした地域の要求に応じて、 保護者の就労を助け、 が定員六十名(うち二歳未満児十二名)で保育事業を開始し 乳幼児の心身の発達に必要な保育をすること 昭和四十四年四 月、 社会福 祉法 人 光 生 た 会

がこの学園 の目的である。 (図6-4-7)

「すなお」「元気」「よい子」を保育目標としてい

日常 ていくとの考えから、 保 音楽、 の保育の柱である。 育内容は リズム、 「児童福祉施設基準法」 絵画製作、 暖かい また同 ふれ おはなし、 じ年代の子ども達が集団の中で、 合いを育む幼児集団づくりを実践している。 第十五条のとおりで、 自 然観察、 社会観察、 将来立派な社会人になるために必要な資質が育 集団あそび、 健康観察、 個 別検 查 午睡 などが

る。

寸 地の人口が増 加するに従って、 学園の施設は拡充され、 最初六○名であった定員はその年のうちに八○名の

第四節

教

育

第六章 現

代

ひかり学園

図 6 - 4 - 7 ひかり学園

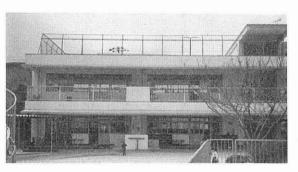


図 6-4-8 ひかり学園々舎

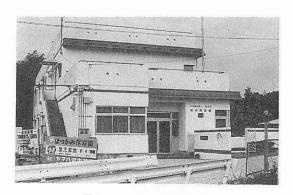


図6-4-9 初神保育園

定員認可となっている。 その後も、 年々定員が増加し、 昭和五十二年

がなさ

仮

称

れたので 熊野東保育所」 昭 和五十四年に ある。 現在は一八○名に変更されている。 は、 の新設が園の理事会で協議、 町 の東部にも地域の住民生活に密着した保育園が必要であるとの要望に応えるため、 決定された。 (一九七七)には定員二五〇名の認可

こうして昭和五十六年社会福祉法人光生会「初神保育園」

が開園された。

定員数は九〇名、

職員の定員は

六名



図 6 - 4 - 11 みど b 藁

で、



図 6 -4 - 10みどり園園章

みどり幼稚園

部地域の必要性に備えるものであった。

(園長、

常勤職員)

である。

明るい近代的

な園舎

it

昭和五十年代に入って新しく宅地造成の進行が始まっ

た町

東

熊野町 日本福音教会連合、 の 番西に位置する平谷地区に、 山口福音教会熊野伝道所の附属幼児施設として、 昭和四十七年(一九七二)

四月に

るどり園」が開設された。 かな園のスタートである。翌四十八年十二月、広島県知事によって宗教法人「熊野福音 教会」の認証を受け、 当初の在籍園児数は三四名で、 山口福音教会から独立して現在に至っている。 最初の卒園児数は五名とささ

園の幼児教育の基本的方針は、

はだし保育(年間を通して)の実施。 音感教育を重視し、 イエスの人格を聖書の中から学ぶ。 幼児の感性を豊かにし基礎を養う。

園児数は、 昭和五十五年(一九八〇)には一四四名となっている。 年々増加する町の人口を反映して毎年増加を続

け る

状 態